

能登教区通信

発行責任者 真宗大谷派 能登教務所長 篠原 亨栄

このたび、標記通信2017年3月号を発行いたしましたので、ご一読のほどお願い申し上げます。

教区教化事業のご案内

◆教区同朋大会について◆ 総合教化本部

- ・日時 2017年6月4日(日) 10時半～15時迄
- ・会場 能登教務所(済美精舎)
- ・テーマ「つながりの再生」
- ・講師 真城 義磨 氏(四国教区善照寺住職 真宗大谷学園専務理事)
- ・参加費 1,000円(弁当付)

詳細は同封のチラシにてご確認の上、是非とも有縁の皆様幅広くお呼びかけください。併せてポスターを掲示し周知くださるようお願いいたします。なお、参加券は3月15日(水)より組長事務所及び教務所にて取り扱いを開始します。

◆こころの広場◆ 同朋会推進部門

- ・日時 2017年3月18日(土) 午後2時～4時
- ・講師 日野 賢之 氏(小松教区 西照寺)
- ・講題 常識と「靖国」
- ・参加費 500円

◆歎異抄講座(第2回)◆ 研修部門

- ・日時 2017年3月14日(火) 午後1時半～4時半
- ・講師 山田 恵文 氏(大谷大学専任講師)
- ・持ち物 『真宗聖典』、念珠、間衣・輪袈裟(有僧籍者のみ)、筆記用具等
- ・参加費 500円
- ・備考 教師陞補第1種認定の講座となります。また、日程終了後、懇親会を予定しております。

◆花まつり～小さなお手てを合わせましょ～◆ 青少幼年部門

- ・日時 2017年3月26日(日) 午前10時～正午頃【昨年までとは日程が変更となっております】
- ・対象 どなたでも
- ・その他 詳細は、先月号同封のチラシをご覧ください、0～6歳のお子様対象の「初参式」に参加希望の方は、3月15日(水)までにお申し込みください。

◆春の子どものつどい◆ 青少幼年部門

- ・日時 2017年3月26日(日) 午後1時半～27日(月) 午後2時頃(一泊二日)
- ・講師 虎石 薫 氏(ラクガキ家・高田教区法泉寺)
- ・対象 新小学3年生から新中学3年生
- ・参加費 3,000円
- ・その他 詳細は先月号同封の案内をご覧ください、3月15日(水)までにお申し込みください。

◆今後の研修会等について◆

- ・2017年4月5日(水) 午前10時～「教区部落差別問題研修会」講師:伊波 敏夫 氏(長野県上田市)
- ・2017年4月10日(月)「大谷婦人会能登教区連合会婦人法話会」講師:滋野井 光 氏(小松教区)
- ・2017年4月15日(土) 午後2時～「こころの広場」講師:平野 喜之 氏(金沢教区浄専寺)

教化事業・その他行事のご報告

◆真宗史講座◆ 研修部門主催

去る、1月25日(水)に、2016年度第2回真宗史講座が、木越祐馨氏(第5組光琳寺)をお迎えし、「石山合戦と能登」という講題のもと開催された。元亀元(1570)年、本願寺11代顕如上人が織田信長と戦うことを決意し、全国各地の門徒衆に、決起団結を促す檄文を送って、各地で一向一揆が起り、石山合戦の火蓋が切られた。

その後の長期間の戦いにより困窮し、朝廷の仲介による和議を進める顕如上人と、信長に「表裏二心あり」と不信感を抱き、石山本願寺での徹底抗戦を主張する教如上人との間で内紛が起こっていた天正8(1580)年頃、能登の門徒衆、坊主衆はどのような動きをしたかを、古文書を読み解きながらお話しいただいた。

信長との和睦を進める顕如上人よりも、「聖人一流」の教えを護り、本願寺という法城が、信長軍の馬蹄に踏み荒らされることを、断じて赦すことが出来ず、大坂本願寺に籠城して抗戦を主張する教如上人を、能登の先達が支持したのは、教如上人の消息に共鳴したからだと教示された。また、教如上人の側近である慈敬寺が書き残した、能登の門徒衆が金銀や銭、素麺を、本願寺に届けた披露状によって、本願寺の門徒衆が、天正8年前後から能登に増加していたのではないかと語られた。31名の参加者は熱心に耳を傾けていた。



〈研修部門 阿岸裕照 記〉

◆連続教学講座◆ 研修部門主催

去る、2月8(水)～9日(木)にかけて、第16期第1回連続教学講座が開催された。講師に藤場俊基氏(金沢教区常讃寺)をお迎えし、参加者約20名が集まり、『浄土論註』を学んだ。

担当班が今回学ぶ範囲の不虛作住持功德についての発題の前に、講師から『浄土論註』という聖教がどのような性格のものか参加者に共通の認識があるかという問題提起があった。『浄土論註』の正式な名称である『無量寿経優婆提舍願生偈註』に出てくる「優婆提舍」という言葉に曇鸞が注目していることを講師は指摘した。「優婆提舍」という言葉は「論」という中国の言葉と重なる部分はあるものの、中国には仏がいなかったため、孔子の論語などと間違われる恐れがある。だから、あえて訳さなかった。また、仏弟子が仏の經典や教えを解釈して、仏義に相応する場合も「優婆提舍」という。これをあえて訳せば仏意相応論ということになる。『浄土論註』はそういう性格の聖教であることを心得て読んでほしいと注意を促した。

翌日の講義では、曇鸞が長年、龍樹の般若・空の思想や教学を学んできた。しかし、長寿に迷っていることを菩提流支に厳しく指摘され、『観経』を与えられ、浄土教を教えられた。その浄土教の教えを龍樹の視点から仏教と言えるか、『浄土論註』で確かめていること。龍樹が『十住毘婆沙論』で「菩薩が阿毘跋致を求めると、難行道と易行道がある」と述べている。阿毘跋致は不退転と訳せるが、やはりあえて訳していないことを指摘し、ただ文章を読んでいだけでなく、なぜそのように書いているのかも考えてほしいと話された。

〈研修部門 國分大慶 記〉

◆歎異抄講座◆ 研修部門主催

去る、2月14日(火)に、2016年度第1回歎異抄講座が、山田恵文氏(大谷大学専任講師)をお迎えし、開催された。雪の中を34人の参加をいただき、前半は、前回の第一条から「歎異」の主題について、「念仏の信心を明らかにしていくことである」と、「善導の二種深信と異なること」であることを確認された。また、後半は、第二条から造悪無碍の異義として受け取られた「悪人成仏」の問題と、「地獄におつべき業」を日蓮の「念仏無間地獄」に揺れる関東門弟の姿をあきらかにされた。そして「いずれの行もおよびがたき身」は聖人において断惑証理、すなわち、乗り越えられない名利心であるとおさえられた。「弥陀の本願まことにおわしまさば」は、念仏の伝統であり、「まこと」にあらわされる救いに仏陀の言葉「法に依りて、人に依らざれ」を表し、関東の門弟に対し、親鸞でなく、法に依る事を示唆された。



〈研修部門 松山宗恵 記〉

◆布教伝道研究会公開講座◆

去る、2月16日(木)布教伝道研究会公開講座が能登教務所で開催された。毎年布教伝道研究会は冬期に先輩布教師に布教に関することを学んでいたが、今回は、昨年全寺院に配布された講義録「変わる葬儀～寺・僧侶に求められるもの～」(2015年7月6日、全国教区会正副議長会)の講師を勤めた小谷みどり氏(第一生命経済研究所主席研究員)の話をお聞きし、布教の在り方を探求することとした。会員だけではなく教区内の寺族の方々にもチラシで呼びかけを行い、公開講座とした。当日は60人程の参集があり、内40名程が坊守の方々であった。



小谷氏は「高齢者の生活問題、現代人の死生観、終末医療、葬送問題」を研究されており、近年の葬儀の意識、宗教の意識も含めて、研究されていることを話された。話の中で我々僧侶に対して辛口のメッセージを多くくださった。例えば①葬儀は葬儀社が仕切って葬儀会館で行うのではなく、もっと寺で行うようにすればどうか、②新興宗教の方々には病院で待ち構えて、病気に悩んでいる方の話を聞いて自分の宗教に引き込んでいる、真宗の坊さんこそ病院に行ったり、自宅に行ったりして、病気や余命通告を受けた人に安心して死んで行けるような話をすべきではないか(現代は病気になっても、余命通告を受けても数年生き続け、その期間が長くなってきている)等、他にも多くの指摘をしてくださった。参加の皆さんも小谷氏のメッセージを寺・僧侶に求められるものとして受け取って帰られたと思う。

〈布教伝道研究会事務局 不二井悟史 記〉

本山・教区事務についてのご連絡

◇おすすめ出版物の紹介◇



マンガ『電坊さん』(1300円)には、真宗の仏事についてや、日頃仏事で疑問に思っていたことなどが一目でわかるようになっている「真宗門徒の豆知識」等が掲載され、またマンガ『電爺さん』(600円)には、「法名」や「帰敬式」などの真宗門徒の生活についてや「縁起」「往生」「他力本願」といった仏教用語の意味について等を、マンガでわかりやすく解説。 《今西 精二 作／難波別院刊》

ラジオ番組「東本願寺の時間」で放送された法話から、一日一話お念仏の教えに出遇ってほしいという願いのもと、31話を選出。

「生きるとはなんだろう」「供養することの意味は」「南無阿弥陀仏ってどういうこと?」…など、日ごろあらためて考えることの少ない事柄について、難しい仏教用語はほとんど使わずにやさしい語り口で書かれた短編法話集。

《文庫版／196 ページ／648 円》



◇法語ポスターについて◇

このたび、過去の教化資料の整理にあたり、在庫としてあった法語ポスターを希望される方にお譲り致します。詳細は同封しております「法語ポスターについてのお知らせ」をご覧ください、ご希望される方は教務所までお知らせください。

◇本山経常費完納寺院◇(2017.1.1～1.31迄)

2016年度本山経常費をご完納いただき、有難うございました。

第1組	得生寺	西照寺		第6組	超願寺		
第2組	本行寺	西教寺		第7組	真照寺	正覺寺	
第3山方組	西性寺	極應寺	光濟寺	鶺鴒組	願慶寺		
	徳願寺			穴水組	弘誓寺	慶得寺	慶樂寺
第4組	常德寺	西岸寺	福誓寺		西蓮寺		
	恵光寺	徳照寺		第13組	願正寺	専徳寺	
第5組	光琳寺			第14組	安泉寺		

ここにご披露申し上げ、御礼に代えさせていただきます。

◇熊本地震救援金現況◇

能登教区救援金現況 **4,000,075円** (2月27日現在)

内訳	金額
・教区内救援金(寺院)	3,180,474円
・教区内救援金(団体・個人等)	519,601円
・教区救援金会計からの拠出	300,000円

全額を宗派救援金口座へ送金

引き続き、救援金勧募にご協力くださいますようお願いいたします。

救援金受付口座

<郵便振替口座>00710-5-3866

<加入者名>真宗大谷派能登教務所

※通信欄に必ず「熊本地震災害救援金」と明記してください

◇住職就任◇(教区通信2月号掲載以降)

第3山方組	願行寺	芳野 了俊	2017年1月28日
第11組	専念寺	壘昇 融	2017年1月28日

※この教区通信は済美精舎ホームページよりPDFファイルでダウンロードすることができます。適宜ご活用ください。

能登教区教化テーマ ほとけさまに会いにきたいのち、今ともに生きよう
 能登教区教化スローガン 一人一人が親鸞聖人に向き合う生活を
 済美精舎ホームページアドレス <http://notokyouku.sakura.ne.jp>